

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公開番号】特開2013-53250(P2013-53250A)
 【公開日】平成25年3月21日(2013.3.21)
 【年通号数】公開・登録公報2013-014
 【出願番号】特願2011-193052(P2011-193052)
 【国際特許分類】

C 0 8 L 23/02 (2006.01)

C 0 8 L 23/26 (2006.01)

C 0 8 K 5/053 (2006.01)

H 0 1 L 31/042 (2014.01)

【 F I 】

C 0 8 L 23/02

C 0 8 L 23/26

C 0 8 K 5/053

H 0 1 L 31/04 R

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月28日(2014.8.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

成分A：少なくとも一種の不飽和カルボン酸無水物が、オレフィン系重合体に、カルボン酸無水物基の成分濃度が0.1～20質量%でグラフトしてなる変性オレフィン系重合体、

成分B：未変性オレフィン系重合体、及び、

成分C：分子内に少なくとも二個の水酸基を有する多価アルコール化合物、を含む樹脂組成物であって、

成分Bの結晶融点(T_m)が100以下であり、

成分Bに対する成分Aの重量含有比率(成分A)/(成分B)が70/30～5/95である樹脂組成物を含む太陽電池素子封止材料。

【請求項2】

前期成分Bに対する成分Aの重量含有比率(成分A)/(成分B)が65/35～10/90であることを特徴とする請求項1に記載の太陽電池素子封止材料。

【請求項3】

前期成分Bが、(1)成分Bの温度上昇溶離分別(TREF)の溶出曲線において高さが最大となるピークの温度が90以下であること、及び、(2)その最大となるピークにおける1/3高さの幅(W)に対するピーク高さ(H)の比(H/W)が2以上であること、の二つの条件(1)及び(2)を満たす、請求項1または2に記載の太陽電池素子封止材料。

【請求項4】

前期樹脂組成物のメルトフローレート(230、2.16kg荷重)(JIS K7210に従う)が0.35～5.43g/10分である、請求項1から3のいずれか1項に記載の太陽電池素子封止材料。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の太陽電池素子封止材料を用いた太陽電池モジュール。

【請求項 6】

請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の太陽電池封止材料を用いて太陽電池を封止する工程を有する太陽電池モジュールの製造方法。